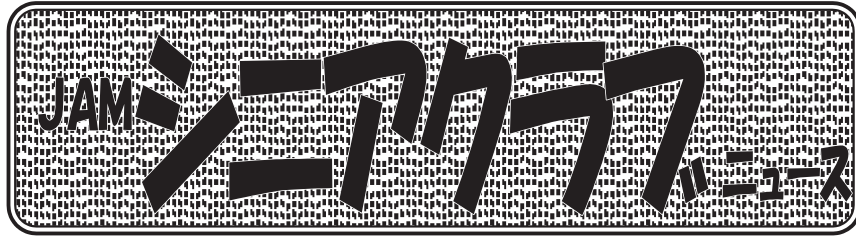


地域組織の確立で
会員間の絆の促進を



第141号

発行日 2019年5月25日

発行者 JAMシニアクラブ

http://jam-senior.club

mail jam-senior@jam-union.jp

発行所 東京都港区芝2-20-12 友愛会館11階 JAM本部内 〒105-0014 電話03-5440-7388 fax03-5440-7389

二役会議と連携懇談会で認識を共有

田中ひさや政策実現活動で活動の強化を確認

シニアクラブは10連休明けの5月8日、シニア三役会議と現役との連携強化懇談会を開催、当面する課題への対応を意見交換した。特に田中ひさや政策実現活動ではカードの集計、基幹労連シニアとの連携、地方JAMとの連携状況などを整理し、終盤の取り組み方針を「2019政策実現 取り組み推進計画VOL4」としてまとめた。

三役会議では地方シニア総会、退職者連合の活動報告と今年度の定期総会日程、年会費徴収について確認後、

「2020年度活動方針素案」と「2019年田中ひさや政策実現推進計画VOL4」を中心に意見交換した。

活動方針は5月24日の第2回幹事会での討議を経て、7月23日の三役会議と第3回幹事会で補強し、9月の定期総会で最終確認する。また2019政策実現の取り組みでは応援者カードの集計が前回実績を21地方で上回る結果となった。



しかしながら全体のカード集約率は依然低調であり、終盤に向けた取り組みとして、応援者カードの活動を継続し、さらに本人応援者、同居家族応援者、紹介者の拡大をはかる。そしてシニア機関紙5月号を地方シニアからシニア会員全員に配布し田中ひさやの周知活動を強化することとした。また各種機材の活用や期間中の活動は地方JAMとの連携を強

田中ひさやは実現をめざします。③



田中ひさや候補予定者のキャッチフレーズは「働くみんなの力になりたい」。ものづくり、ひとづくり、くにづくりを柱にした政策で、すべての人が切り捨てられることなく安心して働き、安心して暮らせる世の中をめざしています。

将来に安心できる社会保障へ (140号続き)

- 専ら被保険者の利益のためにと定められている年金積立金の公平・公正な制度の確立
 - 年金積立金は、社会保険制度のもと拠出者が納付した保険料の一部であることを強く認識し、GPIFの業務運営について、国民の年金制度に対する信頼を高めるため、透明性確保と情報開示を強化する。
 - GPIFの経営委員会は、執行部の長と有識者9人の計10人の委員のうち労使代表は各1人であり、保険料拠出者である労使代表の意思の反映をより一層可能とするガバナンス体制を構築する。

介護関係

- 利用者が安心して住み慣れた地域で暮らし続けることのできるサービス提供体制の強化
 - 寝たきり・認知症予防やレスパイトケア、遠距離介護にかかわる総合相談窓口や支援体制を充実させる。
 - 国は、仕事と介護の両立支援を強化する観点から、職場における介護に関する従業員からの相談対応や法定および社内の両立支援制度の周知、介護保険制度に関する情報提供を徹底するため、「職業家庭両立推進者」の活用を促進する。
- 介護サービスを必要とする人が必要なサービスを受けられる介護保険制度の再構築
 - 介護保険制度を、介護を必要とする様々な人を対象とした総合的・普遍的な制度へ発展させるため、被保険者・受給者の範囲を拡大する。
 - 現行、40歳以上とされている介護保険の被保険者・受給者の範囲は、18歳未満を除くすべての医療保険加入者とする。

中心議題の田中ひさや政策実現活動では、現役とシニアが3年前を上回る手応えを感じながらも情勢が好転がみられず、お互いに厳しさを共有し、さらに取り組みを強めていくことを確認した。

安河内会長は冒頭の挨拶でJAMの組織変革をめざして交流を深めているドイツ・IGメタルにおけるインダストリー4.0(政府が主導して産官学共同で進めている国家プロジェクト)の取り組みを披露しながら新たな組織拡大策を模索していること。今年の春闘では中小の賃上げが「ベア・総額でJAM結成以来の水準を確保した」ことを報告した。



JAM定期大会で会場の代議員に元気に挨拶



京都シニア総会に駆けつけ政策実現への思いを語る



対話活動で全国の職場を訪れ汗を流す行動力



女性活動者会議にでかけ意見交換後にパチリ

いまこそシニアの組織力と底力で必ず実現させよう！ JAMの田中ひさや候補予定者を国会へ



働く上での新しい「当たり前」
を一緒に作りましょう！

31年続いた平成が終わり、新たに「令和」という時代を迎えました。
平成という時代を振り返って見ると、働く上での「当たり前」が大きく変化した時代でした。

JAMは7月の参議院議員選挙において、田中ひさや候補予定者を擁立し、組織をあげて取り組んでいる。国会におけるJAMの議席確保へ「基幹労連」の現役とシニアの仲間からも力強い支援を受け、「田中ひさやを国会へ送ろう」とのうねりが大きく勢いを増している。職場の仲間と真摯に向き合い、退職者の声に耳を傾ける田中ひさや候補予定者への会員からの支援の拡大と名前の徹底をシニアの人脈とネットワークを使い、さらに確実なものとする行動にシニアの皆さんの一層のご協力をお願いします。

例えば昭和の時代は、週休1日で残業も多く、仕事が生活の中心でした。また、男は仕事、女は家庭といった価値観も根強く、女性の仕事は限られ、結婚したら退職というのが「当たり前」でした。このような変化は、ただ待っていても絶対に起こりません。誰かが「当たり前」とされていることに疑問を抱き、何らかの行動を起こしたからこそその変化です。しかし、普通の人が行動を起こしても「当たり前」を変えることは非常に難しいです。ところが、組織内議員がいると話は変わってきます。あなたが疑問に思ったことを、私に伝えていただければ、その声を国会や各

省庁に届けることが出来ます。これはただ声をあげるのとは比較にならないほど影響力があり、強力な変化のきっかけになります。以前、組織内議員だった津田弥太郎さんも、皆さんからいただいた約1000件の要望のうち、9割を解決することが出来ました。組織内議員がいれば、あなたにも「当たり前」を変える力が備わります。
年次有給休暇は全部使うのが「当たり前」、育児は男女どちらも取得するのが「当たり前」など、変えるべき「当たり前」はまだまだあります。一緒に「当たり前」を作り変えていきましょう。



基幹労連の職場を直接訪問し挨拶、政治活動委員会では自らの政策を丁寧に語り参加者の声に耳を傾け意見交換する